

# 国際家政学会 (IFHE) 創立 100 周年記念大会の報告

後藤英子

食生活科学科 食品分析学研究室

Report about the XXI. IFHE World Congress 2008

Eiko GOTO

*Department of Food and Human Science*

Key words : 国際家政学会, 100 周年, 第 21 回世界大会  
(IFHE, 100years anniversary, XXI. World Congress)

本報告は 2008 年 7 月 26～31 日スイス、ルツェルンで開催された国際家政学会 (International Federation for Home Economics 以下 IFHE と略す) の世界大会の報告である。最初に空路でパリに入り、パリからルツェルンへは鉄道で移動した。

## 1. ルツェルン

ルツェルンはスイス中部に位置しスイスらしく急峻な山々に囲まれたルツェルン湖の湖畔に広がる人口 6 万人の都市である。スイス国鉄の要所でもあるが、屋根付きの木橋カベル橋でしばしば紹介される観光都市で、中世の趣を残す城壁や教会が残る。到着した会議前日は音楽祭が開催されていて、街の中心部には観光客が繰り出し登録会場まで行き着くのが大変であった。

## 2. 国際家政学会 (IFHE) 第 21 回世界大会

### (1) 大会の概要

IFHE の世界大会は 4 年に 1 度開催される。今大会の主テーマは「Home Economics : Reflecting the Past – Creating the Future」である。大会は、開会式、全体集会、研究発表会、家政学の様々な実践 (Best Practice) に関する展示セッション、地域別集会、見学会で構成されていた。

プログラム委員会が提起したこの第 21 回大会のトピックは次の通りである。

- ・消費者問題
- ・食糧安全保障と栄養
- ・制度化されたサービスの運営・国連/欧州会議

- ・教育訓練に関する家庭経済政策
- ・IFHE 国際ビジネスグループ
- ・中央・東ヨーロッパへのアウトリーチ
- ・研究活動
- ・開発における女性および家族の立場・織物とデザイン

### (2) 開会式

開会式はルツェルン中央駅隣の国際会議センター KKL (Culture and Convention Centre) で 7 月 27 日 (日) 9:00 より始まった。オープニングセレモニーは、スイス準備委員会による開会と歓迎の挨拶、IFHE 会長の挨拶、前会長でヨーロッパ地域副会長代理、スイス政府代表、ルツェルン市長の祝辞に始まり、この大会に過去から学び未来に生かされる成果を期待するメッセージが寄せられた。フォーマルなスピーチに続いてスイスの民族音楽・舞踊など披露され、さらに歴史委員会からの挨拶、「IFHE の歴史」出版の紹介、百周年の歴史を振り返る映像を納めた DVD の上映、1955 年から 2000 年まで本部が置かれたフランスからの報告が行われた。これらの歓迎行事に続いて、家族の役割と教育の役割に関するそれぞれ 1 件の Keynote address があった。

### (3) 全体集会と研究発表会

全体集会 (Plenary session) は 2 日目から 5 日目までの 8 時 15 分から 10 時 15 分に設定され、KKL の主会場でそれぞれ 2～3 件の発表が行われた。5 日目の

2件目は、家政学専門家達が役割を果たしていくための力の結集に関するパネルディスカッションであった。

研究発表会はKKLの他3カ所の会場で行われ、アブストラクト集によれば個人会員による通常の口頭発表が159件、ポスター発表が187件行われている。さらに、プログラム委員会が前述した10件のトピックス毎にワークショップを平行して開催し、82件の発表が口頭、ポスター、討論の形で行われている。

#### (4) 展示セッション (Displays Best Practices)

家政学の実践に関する展示がルツエルン中央駅のギャラリーで行われた。14カ国から41件の展示発表があり、その内の17件が日本からであった。

#### (5) 会議配付資料

会議参加者に配付された冊子を以下に記す。

- Program
- Proceedings  
(開会式、全体集会、閉会式の挨拶と講演内容が納められている)
- Abstract Book – Research Papers  
(個人会員による口頭発表とポスター発表、プログラム委員会のワークショップ発表の概要が納められている)
- Displays Best Practices-List of participants  
(展示セッションの概要が紹介されている)
- IHFE Position Statement – Home Economics in the 21st Century  
(A4一枚の厚紙の表裏にまとめられている。詳細は後述)
- E-Book – Global Sustainable Development: A Challenge for Consumer Citizens  
(国連の「持続可能な発展のための教育の10年」への貢献として、IFHEとアイルランド教育科学省ならびにダブリン市職業教育委員会教育課程開発ユニットが今大会に合わせて発行したCD-ROMである。2006年から2007年かけて世界的に公募され、IFHEのConsumer Issues and Family Resource Management Programme Committeeが選択した学術・応用・教育分野の90論文が納められている。)

### 3. IFHEについて

会議配付資料とIFHEのHPで紹介されていたIFHEの概要を以下に要約する。

- (1) 目的と組織 (会場で配付されていたIFHE紹介のリーフレットより)
  - IFHEは、家政学と消費者の研究に関する唯一の世界的な組織である。家政学のフィールドにおける国際交流のプラットフォームとして、1908年に設立された。
  - IFHEの目的は、①専門家の間のグローバルなネットワーク、②家政学の認知の促進、③日常生活における家政学的能力の重要さの認識喚起、④家政学の教育の開発、⑤世界中の個人、家族および世帯のための日常生活の質の改善である。
  - IFHEが提供するものは、①グローバルな連携の機会、②国際的な情報および出版物、例えば家政学ニュース(四半期)、③会議とワークショップ(4年ごとの世界会議、半年ごとの協議会、年次の幹部会と委員会)、④国際、国内、地域レベルでの様々なイベント、⑤家政学分野を代表する国際レベルでの意見表明、⑥世界的な研究報告のためのプラットフォーム、である。
  - IFHEの組織は世界中の50か国以上の約1,500人の個人および150の団体が組織されており、①評議会は、メンバー国代表(代表)および執行委員会から成り、IFHEのワーキングプログラムを検討し決定する。②執行委員会(EC)はワーキングプログラムの実施に責任を負い、一年に一度開催される。③事務総局は、ボン(ドイツ)に置かれ、IFHEの事務および組織運営を担当する。④全メンバーは、プログラムと評議会委員会に参加することが出来る。
  - 会員のタイプは、①個人会員と学生会員：家政学の適用、教育あるいは研究に係わっている人達、あるいはこれらのトピックに関心を持っている人達、②団体会員：家政学に関与する専門職協会、大学、学校およびその他の団体、③協賛会員：家政学のトピックに関係のあるサービスや産業の事業者、の3種である。
  - 評議会には次の委員会が置かれている。①財務、②会員、③IFHE大会準備、④学生および若手専門家、⑤出版とコミュニケーション

## (2) 歴史 (IFHE 歴史委員会の報告より)

- ・家政学に関する最初の国際会議が 1908 年スイスのフリブール州で開催され、国際事業継続のための事務局がスイスに置かれることになった。IFHE と称するようになったのは 1955 年からで、当初は家庭経済や家庭教育指導のための「国際オフィス」と呼ばれた。最初の規約は 1909 年のフリブール州議会で承認され、スイス国内で団体としての法的地位が与えられた。その役割は、世界会議の開催、国際家政学ライブラリーの設立、文書サービス、国際メンバー間のリンクの提供、家政学の国際的な導入及び発展の促進とされていた。フリブール州が財政的支援をすると共に同州の公共教育部の部長がオフィスの会長となった。そのため、1909 年から 1954 年までは男性が会長を務めることになった。
- ・1954 年にフリブール州は財政支援を停止し、本部がフランスに移された。それ以降は IFHE と称し 2000 年までパリに本部が置かれた。その本部は 2000 年からドイツのボンに移り現在に至っている。
- ・第 2 回の国際会議が 1913 年にベルギーで開催され個人会費と団体会費が徴収されることになったが十分な収入はなく、財政は今日に至るまで大きな課題である。
- ・IFHE の HP に掲載されている過去 20 回の世界大会の開催地とテーマを表-1 に示す。

## (3) 行動宣言 (IHFE Position Statement - Home Economics in the 21st Century)

IFHE の Think Tank Committee が作成した次の 10 年のための基本文書で、IFHE の活動の自己分析と指針が示されている。その主な内容は次の通りである。

- ・家政学は個人、家族およびコミュニティの最適で持続的な生活を達成するための一連の研究分野で構成される人文科学であり、研究・専門職業領域である。
- ・家政学関係者は、個人、家族およびコミュニティの地位向上と幸福達成のための擁護者である。
- ・家政学は学際的・越領域的な議論を通じて多数の研究分野が合成されて生まれた。食物、栄養、健

康；織物、衣類；住宅；消費者保護；家庭経営；食品科学と医療；人間の発達と家族の研究；教育およびコミュニティ・サービス、等を含む。そのような研究分野の多様性から生まれる問題解決能力は、広い視野に立ったレベルで、政治的、社会的、文化的、生態学的、経済的、技術的システムへ働きかけ、社会のすべてのセクターにおいて影響力を行使する可能性を持つ。

- ・家政学の本質的な方向は、個人および家族の基本的ニーズおよび実用的な関心に焦点を当てること、多数の研究領域から知識、プロセスおよび実用技術を取り入れ合成すること、個人、家族およびすべての社会セクターの幸福を追求し、弁護するために行動する能力を実証することである。家政学がこれらの特性を発揮することによりその持続性が保障される。
- ・Home Economics という名称は適切であり、活動内容を時代にそって変化させながらもこの名称は変えない。
- ・家政学は、現在の時代で新たな注目を浴びている重要な専門領域ある。現在の世界は、先例のない変化の渦中にあり、持続可能な開発を進めると共に価値ある社会要素を保持することを強く要請している。ここに家政学の可能性を見いだす鍵がある。

## 4. むすび

大会の行われたルツェルンの会議場 (KKL、他) は風光明媚な湖に面し、湖の周囲には観光スポットも散在している。会場の選択には主催者の配慮が行き届いていたように思われた。

次回大会は 4 年後にオーストラリア、メルボルンで開催されるとのことである。

表－1 これまでの国際家政学大会の開催地等と大会テーマ (http://www.ifhe.org/134.html より)

	開催年	場所	国数	出席者数	大会テーマ
1	1908	Fribourg <i>Switzerland</i>	20	750	The training of Economics Teachers. Necessity of involving the greatest number of girls in Home Economics Education
2	1913	Ghent <i>Belgium</i>	27	600	Home Economics in Elementary and Intermediate schools and for adults
3	1922	Paris <i>France</i>	35	2000	Methods of town and rural Home Management Teaching
4	1927	Rome <i>Italy</i>	34	1500	Role of Home Economics from the social standpoint. Taylorism in the organization of household work
5	1934	Berlin <i>Germany</i>	23	900	Home Management Teaching must use all sciences and requires a rational organization of domestic work
6	1939	Copenhagen <i>Denmark</i>	24	400	Restoration or conservation of intellectual, moral, social and economic inheritance of countries by women's education
7	1949	Stockholm <i>Sweden</i>	22	700	Adaption of Home Economics teaching methods to the psychological development of young people
8	1953	Edinburgh <i>United Kingdom</i>	55	1250	Home Economics at the service of life: its contribution to individual and social progress
9	1958	Maryland <i>United States</i>	60	1040	Education in Home Economics relative to the social and economic conditions of various countries
10	1963	Paris <i>France</i>	52	2000	Home Economics Education to meet changing world conditions and needs: In preserving the inherent values of family life. / In serving the wider society
11	1968	Bristol <i>United Kingdom</i>	62	1100	Home Economics in the service of international cooperation: sociological, scientific and economic, educational
12	1972	Helsinki <i>Finland</i>	43	1000	Home Economics, a vital force
13	1976	Ottawa <i>Canada</i>	53	1000	“Life, not just Survival” Home Economics and the Utilisation of the Worlds Recources
14	1980	Manila <i>Philippines</i>	54	1400	Home Economics, a responsible partner in development
15	1984	Oslo <i>Norway</i>	54	950	Technology and its Effect on Living Conditions
16	1988	Minneapolis <i>United States</i>	80	1400	“Health for all” The role of Home Economics
17	1992	Hanover <i>Germany</i>	80	1580	Focussing on Families and Households: Change and Exchange
18	1996	Bangkok <i>Thailand</i>	45	830	Living condition: A global Responsibility
19	2000	Accra <i>Ghana</i>	37	600	A new Century: Focus on the future, / The expanding Role of Home Economics: / In developing human recources / In improving living conditions and fostering human rights / In advocacy for families and households
20	2004	Kyoto <i>Japan</i>	36	1066	Cooperation and Interdependence-Fostering Leadership in Home Economics For Healthy Communities
21	2008	Lucerne <i>Switzerland</i>	54	1100	Home Economics: Reflecting the Past - Creating the Future